

変形性関節症の病態に迫る

—疾患修飾による治療を展望して—

超高齢社会が顕現化した日本において、加齢を基盤とする変形性関節症（OA）は、高齢者の運動器疼痛や歩行機能低下を生じるロコモティブシンドロームをなす主たる疾患であり、本症の克服は運動器疾患における喫緊の課題です。本号は、「変形性関節症の病態に迫る—疾患修飾による治療を展望して」と題して、日本における OA に関する基礎・臨床研究分野で随一の専門家の方々にご執筆いただきました。

塩澤 淳先生には、早期膝 OA におけるヒアルロン酸-アグリカンネットワーク構造の分解機構について、齋藤 琢先生には、関節軟骨細胞に対する浅層・深層におけるメカノトランスダクション経路と OA の病態を、小川寛恭先生には、軟骨代謝・軟骨細胞のメカノトランスダクションに係るカルシウムイオンチャネルの病態と OA の予防や治療への期待を、そして寺内 昂先生には、細胞エネルギー代謝調節因子と DNA 損傷修復酵素活性と軟骨異化因子の関係を、詳細に説明していただきました。

また、高橋謙治先生には、成長因子・遺伝子治療、温熱治療・低酸素ストレス応答を用いた OA 治療の現況と展望を、赤崎幸穂先生には、新規 NF- κ B シグナル促進因子と阻害薬の相互作用と OA 治療薬としての試みをご説明いただきました。寺部健哉先生には、軟骨細胞内代謝変動を制御する AMP-activated protein kinase による OA 新規疾患修飾薬の可能性を、松岡正剛先生には、糖鎖修飾や糖脂質の制御が OA 治療標的となる可能性を、宮原潤也先生には、OA の滑膜炎や関節破壊に関与する滑膜細胞サブセットの新たな治療標的としての有用性を述べていただきました。

さらに、関矢一郎先生には、OA 予防を目指した滑膜細胞移植による半月板再生の基礎と臨床研究をご説明いただき、大鶴任彦先生には OA に対する細胞や血液由来製剤による生物製剤を関節内注射するバイオセラピーの現況と展望について概説いただきました。

読者の皆様におかれましては、どうか本書を繙いていただき、OA の病態解明と疾患修飾治療に向けた研究の現況と展望を知る一助になるとともに、今後の OA 研究のさらなる発展に寄与できれば、企画者として望外の喜びであります。また、ご多用の中、精力的に執筆作業に取り組み、貴重な原稿をお寄せいただいたすべての執筆者の皆様に、企画者として厚く御礼申し上げます。

さらに、膨大な実務作業を忍耐強くかつ緻密にこなしていただいた金原出版『整形・災害外科』編集室に改めて御礼申し上げます。

（内尾祐司）